

“エイジレス社会” 海外福祉事情・調査研修に参加して
～アメリカのシニア介護、ターミナルケアの現場から、
患者と家族への包括ケア、医療と介護の協働体制を学ぶ～

事務局経営企画部事業課
末道 大作

1 はじめに（研修目的）

自己責任と開拓の精神に基づいた国家形成を背景に持ち、障害者の自立生活運動や人種差別の撤廃に努めてきたアメリカで、どのような仕組みでサービスが提供されているのか、支援者はどのような考え方に基づいてサービスを提供し、利用者はどのように感じてサービスを利用しているのか、その実際を見聞きすることで、事業団の福祉サービスの質の向上につながる知見を得る。

2 研修内容

- ・研修場所：アメリカ合衆国カリフォルニア州
- ・研修期間：平成28年11月14日～19日（4泊6日）

（1）アメリカの医療・福祉制度の学習

アメリカには、公的介護保険が存在しない。医療では、公的医療保険が存在している。しかし、それらには所得制限、年齢制限が設けられているため、民間保険への加入が多くを占めている。

アメリカ医療保険加入状況（2014）

民間保険加入者（66.0%）

メディケイド（19.5%）
低所得者対象

メディケア（16.0%）
65歳以上対象

無保険者
（10.4%）

（2）視察1 総合シニアコミュニティ（Atherton Homes）

同敷地内に高齢者ホーム、介護施設、医療施設などが設置されている。ADLの変化に応じて、入居者がスムーズにホームを移動することで、一体的・継続的な環境の中でケアを提供するとのこと。

高齢者ホーム …日常介助を必要とせず独立して生活できる高齢者対象。
介護施設 …介護が必要な高齢者対象。24時間介護スタッフが対応。
ナーシングホーム…看護が必要な高齢者対象。療養型病院と類似。

(3) 視察2 終末期ケア用介護ホーム(Caring House)

終末期を迎えた方(余命6ヶ月以内の宣告)に、自宅にいるのと変わらない環境でケアを受けていただき、可能な限り快適に過ごしていただくことを目的に2016年2月にオープンした介護施設。寄附金とボランティアの協力で運営される。



(4) 視察3 認知症専門介護施設(Silverado Senior Living)

職員と入居者の比率「1:7」で、エビデンスに基づいた認知症支援をされている介護施設。ベッド柵をつけない理由、ガラスのメモリーボックスを廊下に配置する理由、食事制限を設けない理由、「頭によい」食事、などエビデンスにもとづいたサービスを提供している。全米で15施設、チェーン展開している。



(5) 視察4 ホスピス専門医療施設(Citrus Valley Hospice)

終末期を迎えた方(余命6ヶ月以内の宣告)、その家族に対して総合的なサービスを提供している医療施設。多くのボランティアが活躍されている。医療施設であり、医療保険適用可。



3 研修の成果と残された検討課題

認知症ケア、ホスピスケア、ボランティア、医療・介護保険制度、医療と介護の連携、寄附の文化

4 参考（写真集）

総合シニアコミュニティ (Atherton Homes)



【高齢者ホーム】

夫婦で利用されている方もいる。写真は、マンションタイプのもので50室ある。その他、独立した住宅型のものが170棟ある。ADLの状態に応じて、高齢者ホームから介護施設へ、介護施設からナーシングホーム（医療施設）へと同敷地内で移動されることになる。

終末期ケア用介護ホーム (Caring House)



【周辺の様子】

一般の閑静な住宅街のなかにある。施設設立時、周辺の反対は特になかったとのこと。近くの教会が駐車場等を提供していたり、地域からの寄附金やボランティアで運営ができていたとのこと。

認知症専門介護施設 (Silverado Senior Living)



【メモリーボックス】

各居室の入口に、メモリーボックスが設置されている。入居者がこれまでどのような生活を営まれてきたのか、入居者個人の写真や思い出の品、メッセージが展示されている。入居者が尊厳をもって生活を営まれるよう、また職員が入居者のことを知ることで虐待予防につながるといった意図で設置されている。

ホスピス専門医療施設 (Citrus Valley Hospice)



【内庭】

各居室に対して、個人スペースの庭が設けられている。それらとは別に共用スペースとしての内庭があり、地元高校生がDONATED（寄贈）したと記載されていた。庭に設置してある石像等にも寄贈者の氏名が記載されていた。カリフォルニア州は、雨が少なく、水が少なくても枯れない観葉植物を用いるなど工夫をされていた。